

第8回ふね遺産認定式（WEBハイブリッド方式で開催）のお知らせ

歴史的で学術的・技術的に価値のある船舟類およびその関連設備を「ふね遺産」(Ship Heritage)として認定し、社会に周知し、文化的遺産として次世代に伝えるため、日本海洋船舶工学会が発足させたふね遺産認定事業も今年で第8回を迎え、新たに次の3件を決定しました。

■潜水艇「はくよう」

大陸棚（水深200～300m）開発のための有人潜水作業船の第一船

■世界一周ヨット「海連」

今給黎教子氏による日本人女性初の世界単独一周に用いられたヨット

■捕鯨船「第十六利丸」

戦後最盛期の捕鯨船団を構成した現存する大型高速キャッチャーボート

認定式は対面形式に加え、WEBを利用したハイブリッド方式を取り入れ、遠方の方にも広く参加いただけるようにいたしました。記念講演もありますので多くの皆様のアクセスをお待ちしています。

2024年9月13日 14:00～16:00

<https://us02web.zoom.us/j/83851550013?pwd=T9UGpJMwzkMdn8BWBBYlspLtdZaaxe.1>

ミーティング ID: 838 5155 0013

パスコード: 840287

<プログラム>

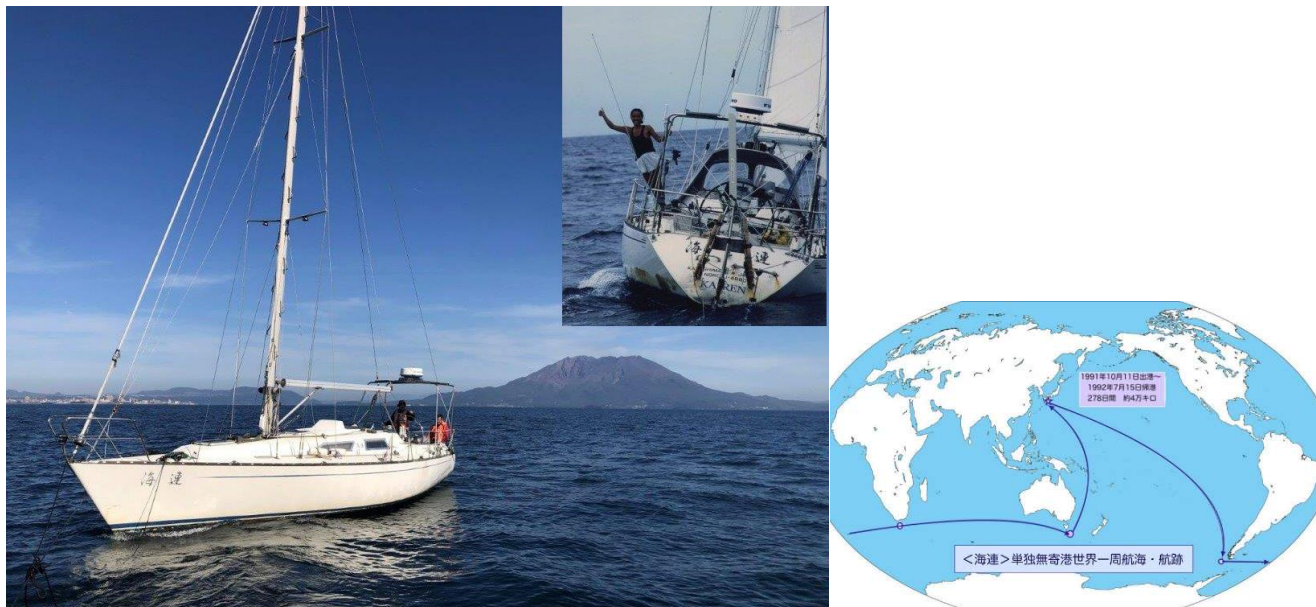
14:00～14:05	ご挨拶	日本船舶海洋工学会会長	橋本 州史
14:05～14:20	第8回認定ふね遺産紹介	ふね遺産認定実行委員会委員長	小嶋 良一
14:20～14:35	認定書授与式		
14:50～15:50	記念講演		
		「日本人女性初の単独世界一周航海」—小型ヨット「海連」と航海の実際（仮題）	
			講師 今給黎教子氏

なお、WEB参加の方にはご発言いただけませんのであらかじめご了承ください。

また記念講演詳細につきましては添付チラシをご覧ください。

日本人女性初の世界単独一周に用いられたヨット「海連」

講演：今給黎教子氏



平成3（1991）年から平成4年（1992）年にかけて、日本女性で初めて単独無寄港世界一周航海を成し遂げたヨットで、日本のセーリング文化や海事思想の普及に多大な影響を与えました。また、女性の体格に合うデッキレイアウト変更も行ないました。 主要目は次のとおりです。

全長 10.64m、全幅 3.5m、重量 5t、マスト高 14m、喫水 1.8m。

講演者略歴：

- 1965年 1月 21日 鹿児島県日置市吹上町生まれ
- 1988年 単独太平洋往復横断航海成功（日本・鹿児島市～米国 計142日）
- 1990年 第1回全日本女子マッチレース優勝（Team ヤマハ/艇長）
- 1991年 メルボルン大阪ダブルハンドヨットレース準優勝（RAIKA/co 艇長）
- 1991～1992年 単独無寄港世界一周航海成功（日本～日本・278日）
- 1994年 環太平洋ヨットレース出場（Team 海連/艇長・プロレス大仁田厚氏同乗）
- 1997年 Sail Osaka（香港～大阪国際帆船レース）出場（帆船ティダマンディ/艇長）
- 1998年～2002年 鹿児島県各地でのセイルトレーニング活動（錦江湾・トカラ・奄美）
- 2005年～ 各地ヨットレースやイベント参加協力
世界一周ヨット「海連」を利用した、各地での「海の学校」活動

受賞歴：

文部大臣 スポーツ功労賞、運輸大臣 特別表彰 他。